

検査結果のみかた

主な血液検査値の見方

項目名	基準範囲	単位	検査値の捉え方
白血球数 (WBC)	33 ~ 86	$\times 10^2/\mu\text{l}$	感染症・炎症・白血病等で増加、薬剤の影響で減少する。
赤血球数 (RBC)	♂ 435 ~ 555 ♀ 386 ~ 492	$\times 10^4/\mu\text{l}$	減少することにより貧血の有無がわかる。
ヘモグロビン (Hb)	♂ 13.7 ~ 16.8 ♀ 11.6 ~ 14.8	g/dl	鉄分の不足による貧血の他に白血病・胃潰瘍・痔・子宮筋腫等の疾患によって貧血する事がある。
ヘマトクリット (Ht)	♂ 40.7 ~ 50.1 ♀ 35.1 ~ 44.4	%	
血小板 (PLT)	15.8 ~ 34.8	$\times 10^4/\mu\text{l}$	出血を止める働き。肝疾患等で減少、リウマチ等で増加する。
MCV	83.6 ~ 98.2	fL	赤血球恒数であり、赤血球の大きさがわかる。
MCH	27.5 ~ 33.2	pg	赤血球恒数であり、各種貧血の分類指標となる。
MCHC	31.7 ~ 35.3	g/dl	赤血球恒数であり、各種貧血の分類指標となる。

主な尿検査値の見方

項目名	基準範囲	検査値の捉え方
比重	1.002 ~ 1.030	急性腎不全・腎盂腎炎で低値を示す。 糖尿病・脱水症・ネフローゼ症候群で高値を示す。
P H	5.0 ~ 8.0	(酸性尿) 肉類摂取・アシドーシス(代謝性・呼吸性)・発熱など (アルカリ性尿) 野菜摂取・尿路感染症・アルカローシス・尿放置など
蛋白	(-)	(病的蛋白尿) ネフローゼ症候群・腎盂腎炎・炎症・腫瘍など (生理的蛋白尿) 発熱・運動後・入浴後・起立性蛋白尿など
ブドウ糖	(-)	糖尿病・末端肥大症・クッシング症候群・甲状腺機能亢進症 妊娠後期・過食後・ブドウ糖注射後など
潜血	(-)	(+) 赤血球尿(多くの腎尿路系疾患) ヘモグロビン尿(火傷・不適合輸血・夜間発作性血色素尿症)
ウロビリノーゲン	(±)	(-) 完全胆道閉塞・抗生物質大量投与など (+) 溶血性貧血・肝炎・肝硬変・肝癌など
ビリルビン	(-)	(+) 肝炎・肝硬変・肝癌・胆道閉塞など
ケトン体(アセトン体)	(-)	(+) 重症糖尿病・糖尿病ケトアシドーシス・飢餓状態・嘔吐・ 熱性疾患・脱水症状・嘔吐・激しい下痢など
白血球反応	(-)	(+) 尿路感染症・炎症性疾患など

主な腫瘍マーカー検査値の見方

項目名	基準範囲	単位	検査値の捉え方
CEA (CLEIA法)	5.0 以下	ng/ml	悪性腫瘍・転移性肝癌・炎症性疾患などで異常値を示す。
AFP (CLEIA法)	10.0 以下	ng/ml	肝細胞癌・慢性肝炎・肝硬変などで異常値を示す。
PIVKA-II (CLEIA法)	40 未満	mAU/ml	肝細胞癌・慢性肝炎・肝硬変などで異常値を示す。
CA-125 (CLEIA法)	35.0 以下	U/ml	卵巣癌・膵臓癌・子宮頸部癌などで異常値を示す。
CA 15-3 (CLEIA法)	25.0 以下	U/ml	乳癌で異常値を示す。
CA 19-9 (CLEIA法)	37.0 以下	U/ml	膵臓癌・胆道癌・大腸癌などで異常値を示す。
PSA (CLEIA法)	4.0 以下	ng/ml	前立腺癌・前立腺肥大などで異常値を示す。

検体検査とは？

体液（血液や尿など）には多くの種類の物質が溶け込んでいて、それらの中にはある特定の病気に関連してその濃度が増減する事がわかっています。その成分の濃度やそこに含まれる細胞の数などを調べる検査のことを検体検査といいます。

基準範囲とは？

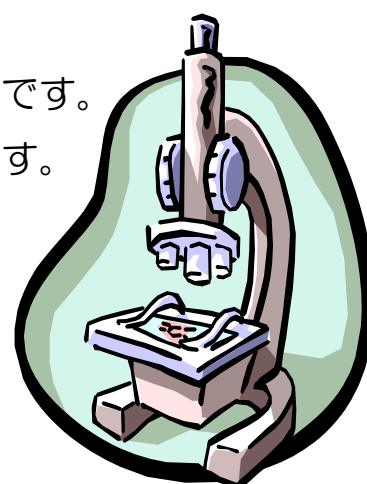
当院では、全国での利用が推奨されている共用基準範囲を利用することにいたしました。しかしながら、脂質検査・糖尿検査・尿酸検査におきましては、臨床判断値を継続して使用していきます。

※ 臨床判断値とは、各専門学会等が推奨している基準範囲

また、測定値は従来通り年齢・体質などの個体差や食事などの影響により変動することがあります。

基準範囲は、早朝空腹時に採血した場合の数値です。
早朝空腹時とは、朝食を食べる前のことをいいます。

検査結果のみかたに掲載している検査項目は、当院で検査している代表的な検査項目のみです。



診断には医師の総合的な判断が必要になります。
疑問な点は主治医にご相談ください。

主な生化学検査値の見方

項目名		基準範囲	単位	検査値の捉え方	項目名	基準範囲	単位	検査値の捉え方	
腎臓	尿素窒素 (UN)	8 ~ 20	mg/dl	腎炎・腎不全等で高値を示す。下痢・発熱などの脱水時や高蛋白食の摂取で高値を示す。	蛋白質	総蛋白 (TP)	6.6 ~ 8.1	g/dl	全身の栄養状態をみます。腎疾患・肝疾患・栄養不良等で低値を示す。骨髄腫・脱水時に高値を示す。
	クレアチニン (CRE)	♂ 0.65 ~ 1.07 ♀ 0.46 ~ 0.79	mg/dl			アルブミン (ALB)	4.1 ~ 5.1	g/dl	総タンパクの60%を占める成分で、栄養状態を示す。
	eGFR (推算糸球体濾過値)	90 以上				アルブミン/グロブリン比 (A/G比)	1.32 ~ 2.23		アルブミンとグロブリンの比で、グロブリンは免疫に働く蛋白。
痛風	尿酸 (UA) ※ 臨床判断値	♂ 3.7 ~ 7.0 ♀ 2.7 ~ 7.0	mg/dl	痛風や腎機能の悪化で高値を示す。アルコールの多飲や肥満(過食)でも上昇する。	肝臓	総ビリルビン (TB)	0.4 ~ 1.5	mg/dl	黄疸の程度を示し、肝・胆道疾患で高値を示す。
電解質	ナトリウム (Na)	138 ~ 145	mmol/L	血液中の電解質のバランスを診断する。高血圧・肝・腎疾患・利尿剤・脱水等で異常がみられる。		アスパラギン酸アミトランスフェラーゼ (AST)	13 ~ 30	U/L	肝炎・心臓・筋肉の疾患で高値を示す。アルコール・肥満・薬剤の影響でも上昇する。
	カリウム (K)	3.6 ~ 4.8	mmol/L			アラニンアミトランスフェラーゼ (ALT)	♂ 10 ~ 42 ♀ 7 ~ 23	U/L	
	クロール (Cl)	101 ~ 108	mmol/L			乳酸脱水素酵素 (LD)	124 ~ 222	U/L	肝臓・心臓・肺臓・血液・筋肉等の疾患で高値を示す。
	カルシウム (Ca)	8.8 ~ 10.1	mg/dl			アルカリホスファターゼ (ALP)	106 ~ 322	U/L	肝・胆道疾患・骨疾患等で高値を示す。骨の成長期の小児では上昇する。
	無機リン (IP)	2.7 ~ 4.6	mg/dl			ロイシンアミノペプチダーゼ (LAP)	30 ~ 90	U/L	肝・胆道疾患で高値を示す。
	貧血	血清鉄 (Fe)	40 ~ 188			μg/dl	血液中の鉄分の量を示す。鉄欠乏性貧血で低値を示す。	γ-グルタミルトランスペプチダーゼ (γ-GT)	♂ 13 ~ 64 ♀ 9 ~ 32
不飽和鉄結合能 (UIBC)		120 ~ 290	μg/dl	鉄分不足の目安。鉄欠乏性貧血で高値を示す。		コリンエステラーゼ (ChE)	♂ 240 ~ 486 ♀ 201 ~ 421	U/L	肝臓で作られ、脂肪肝で上昇し、肝硬変で低値を示す。
フェリチン (FER)		♂ 39.4 ~ 340 ♀ 3.6 ~ 114	ng/ml	肝臓・脾臓などに存在する貯蔵鉄と結合しているタンパク質です。		アンモニア (NH ₃)	75 以下	μg/dl	肝臓に障害があると高値を示す。
糖尿		血糖 (Glu) ※ 臨床判断値	70 ~ 109	mg/dl		糖尿病で高値を示す。食事の影響で正常者でも上昇する。	HBs抗原 (HBs-Ag)	0.005 未満	IU/ml
	ヘモグロビンA1c (HbA1c) ※ 臨床判断値	4.9 ~ 6.0	%	採血前1ヶ月間の糖尿病の状態を反映する。	HCV抗体 (HCV-Ab)	1.0 未満	C.O.I	C型肝炎ウイルスに対する抗体の有無を調べる。	
	インスリン (IRI)	1.9 ~ 13.7	μU/ml	膵臓から分泌され血糖値を下げる働きをする。	総コレステロール (TC) ※ 臨床判断値	130 ~ 219	mg/dl	高脂血症で高値、動脈硬化に関係しており高値が続くと動脈硬化が進行する。腎臓病・肝臓の疾患等でも変化を示す。	
炎症	赤血球沈降速度 (ESR)	20 以下	mm/hr	炎症性疾患・貧血で上昇を示す。	脂質	HDLコレステロール (HDL-C) ※ 臨床判断値	40 ~ 80	mg/dl	動脈硬化を防ぐ善玉コレステロールで、動脈硬化の進行で低値を示す。運動により上昇する。
	C-反応性蛋白 (CRP)	0.14 以下	mg/dl	炎症があると高値を示し、風邪・外傷・歯槽膿漏で上昇する。		LDLコレステロール (LDL-C) ※ 臨床判断値	70 ~ 139	mg/dl	動脈硬化症起因性のコレステロールで、動脈硬化(心筋梗塞など)の進行で高値を示す。
	シアル化糖鎖抗原 (KL-6)	500 未満	U/ml	間質性肺炎の病態を反映して推移する。		中性脂肪 (TG) ※ 臨床判断値	30 ~ 149	mg/dl	エネルギー源としての働きをもっており、高脂血症・糖尿病・脂肪肝・アルコール多飲・肥満等で高値を示す。
リウマチ	リウマチ因子定量 (RF)	15 以下	IU/ml	リウマチ・膠原病の診断を行う。	心臓	クレアチン・キナーゼ (CK)	♂ 59 ~ 248 ♀ 41 ~ 153	U/L	心筋・骨格筋に多く含まれており、筋肉疾患・心臓病・甲状腺機能低下症で上昇する。
	マトリックスメタロプロテイナーゼ-3 (MMP-3)	♂ 37 ~ 121 ♀ 17 ~ 60	ng/ml	滑膜増殖と関節破壊の状態を反映する。予後予測のマーカー		NT-proBNP	125 以下	pg/ml	心不全の診断・経過観察に有効で、心不全で高値を示す。
甲状腺	甲状腺刺激ホルモン (TSH)	0.46 ~ 3.73	μIU/ml	甲状腺ホルモン・刺激ホルモンの不足で上昇し、過剰で低下する。	膵臓	アミラーゼ (AMY)	44 ~ 132	U/L	膵臓炎・唾液腺炎等で上昇する。
	遊離トリヨードサイロニン (Free-T3)	2.14 ~ 4.09	pg/ml	甲状腺ホルモンの量を示す。		P型 アミラーゼ (P-AMY)	15 ~ 40	U/L	膵臓の状態をみます。膵臓障害で高値を示す。
	遊離サイロキシシン (Free-T4)	0.88 ~ 1.50	ng/dl	甲状腺機能亢進症で高値になり、機能低下症で低値を示す。					